

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社 ポプラ		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	旭川市春光4条9丁目6-12		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901431-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域に周知され、信頼されたホームを目指しています。 ・入居者様思いを傾聴し、健康で安心して過ごせるように生活を共にする。 ・職員が明るく笑顔で接し、体調の変化等に留意しています。 ・ご家族、医療との連携を図り、速やかな対応を心がけて居ます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>【家族との強い信頼関係】 年2回開催の家族会には多数の家族が参加し、和やかな雰囲気の中で会合を楽しんでいます。家族のホーム訪問時の職員の優しく丁寧な対応にも感謝しており、家族と職員の強い信頼関係が伺えます。</p> <p>【良好なチームワーク】 管理者の介護に対する熱い思いが職員に伝わり、職員間の良好なチームワークにより利用者一人ひとりに寄り添った親身なケアサービスが徹底され、家族は利用者のホームでの暮らしに安心しています。</p> <p>【地域との連携交流推進】 町内会行事への協力以外にホームのあじさい祭りやクリスマス会に多数の住民や子供達が来訪して楽しむなどホームからの積極的な働きかけで地域との交流を推進しています。</p> <p>【ホームの維持管理徹底】 平成15年に開設の建物ですが、清掃や維持管理を徹底してきたため、利用者にとって暮らし易く、職員にとって働きやすい環境となっており安心して過ごせるホームです。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設創設時より理念に基づき、見やすいところに提示し、管理者指導の下に共有し日常の業務に活かせるよう意識して業務している。	事業所の運営理念と基本方針を内部掲示し、ミーティングや日常業務を通して理解と確認に努め、利用者へのケアサービスに理念を反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、協力や近所の商店やスーパーにおいて日常の食材の購入をし、又町内会の役員等をして地域の方々と交流をしている。	高齢化と介護度上昇により利用者の町内会行事への参加は少なくなっていますが、職員の町内会への協力とホームのあじさい祭りやクリスマス会への住民参加などホーム側からの積極的な交流推進によって、地域と一体感のある存在になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を事業所の行事お誘いし、参加して頂き利用者様と触れ合ってもらい、理解を深めて頂けるように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催の折に事業所内の出来事や、利用者様の状態等を報告し、結果等について、意見を頂いたり、経験談をお聞きし、拝聴したことを参考にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、多数の地域住民、介護事業所関係者、家族、市担当職員がメンバーで定期的に開催されています。会議では報告事項以外に時宜に合ったテーマでの話し合いや意見交換を行い、サービスに反映させるよう努めています。	運営推進会議への家族参加が少ないため、会議開催趣旨の理解と参加促進のために全家族への議事録送付を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、機会あるごとに連絡を取ったり、訪問したりして、指導を仰ぎ、より良い関係を保ち協力しあえる関係を築いている。	市担当職員は運営推進会議に参加していますが、地域包括支援センター職員も随時ホームを訪れて管理者と意見交換をしています。各種提出書類も郵送に頼らず、直接、担当窓口へ持参して相談や情報交換を行うなど行政との良好な協力関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケア実践の中で拘束の3条件に当たるかを意識し、職員同士で話し合いながらケアに当たると共に実践に取り組んでいます。昼間は玄関の施錠もする事なくケアしている。	身体拘束防止関連の外部研修受講者が内部勉強会で報告しています。マニュアル類も整備しています。日常業務を通して管理者やケアマネージャーからのアドバイスで職員は身体拘束をしないケアを理解し、意識してケアの実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに職員は研修会や勉強会に参加し、自分たちのケア等が虐待に当たるか等を検討しながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修等に参加し学んでいる。ご家族からの要望がある時や必要な利用者様には説明し活用できるように努力し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	案内書や利用契約書は分かりやすく記載され、利用者様との契約時や質問等に管理者は説明し、理解と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族からの要望や意見等は常時受け付け、面会時に話し合える雰囲気作りや声掛けを行い意見を反映させられるようにし、又「家族会」開催時に意見交換が出来るように配慮し運営に反映させている。	頻繁にホームを訪れる家族も多く、その都度利用者の様子を伝えると共に要望等も聞いています。年2回開催の家族会へも多数の家族が参加し、ホーム行事を楽しむなど家族と職員の信頼関係が築かれています。要望等は内部で検討して速やかに対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、月1回の全体会議等に意見をだせるように配慮し、意見を聞き全体で討論し、日々の業務に反映させている。	管理者、ケアマネージャー、職員間のコミュニケーションは良好で、日常業務やミーティングにおいてホーム運営や利用者のケアサービスについて自由に話し合い、意見や提案を協議しながら運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況、勤務実績等を把握し、個人の能力や向上心を保てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の向上心を後押しして内外の研修参加を勧めている。又個人的に技術指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は同業者と勉強会グループを作り、同業者連合主催の勉強会やネットワーク作りを行い、積極的に参加しサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者はもちろん面接時等でご本人やご家族と面談しご本人の困っている事、心配事、不安等をお聞きしている。その際、生活環境や生活暦等も話し合う中でお聞きし、不安等の解消に役立て信頼関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時等に施設見学やご家族の困っている事や要望等をお聞きする場を設け、不安な事や知りたい事等を尋ね、話し合う事で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定の段階で、管理者、計画作成担当者、介護リーダーがご本人、ご家族と話し合い、一番困っている事、どのようなサービスが必要か見極め、必要なサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は各個人の出来る事、出来ない事を見極め、職員間で話し合い、各個人に合った作業を共に行なったり、お願いしたりして共に暮らすという関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会は、自由であり、面会の際は自室でゆっくり過ごせるようお茶等を提供して配慮している。日頃の様子を伝えたり、ご家族からのお尋ねに応じたりしている。又お便りを発行し日頃の様子を感じて頂きご家族と共に一緒に支えていく関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の親戚、友人等の郵便物、電話などの橋渡しをし、関係が途切れない無様配慮している。会話の中から昔の友人、知人、馴染みの場所等推察される写真や雑誌等を提供したり、思い出話を聞いたりして支援している。	利用者の高齢化と介護度上昇のため、馴染みの場所への外出希望は少ない状況ですが、家族や知人への連絡の手伝いや昔の思い出話をしています。訪問者が来る際には温かく歓迎して、利用者と一緒にゆっくり過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の個性を把握し利用者様同士関わり合い、相性等を把握し、食事の席、ゲームのチーム分け等に配慮している。又、体操やレクリエーション、歌の時間等一同に集え、関わり合いが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院中等の方へのお見舞い日常生活支援、御家族の希望により、外部他機関への紹介、相談に乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から思いや意向を聞き取り意に添えるように配慮している。ご本人が表現できない時等はアセスメントツールを利用したり、日常生活の会話からご本人の思いを探りながら支援している。	職員は、利用者や家族との会話や日常のケアサービスへの反応から思いや意向を把握しています。困難な時は、諸記録の確認、職員間の相談、利用者が望むと思われる複数の提案を示すなど、利用者本位のケアサービスに徹するよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中から職員間で情報を収集、共有し各個人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で各個人の身体状況の把握、出来る事と出来ない事等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に関わる人達からの要望や職員間から課題やケアのあり方等の意見を出し合い計画の見直しに役立て日々のケアに反映できるようにしている。	日々のケース記録はケアプランを意識しながら記録し、担当職員が中心となって利用者の状態観察とモニタリング記録表を基に毎月のカンファレンスでプラン見直しを協議しています。プラン見直し時には家族や主治医とも相談して作成し、全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のケース記録に日々の様子を記録し、随時対応の良し悪し等を記載し情報を共有し計画の見直しに役立て、日々のケアに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態、変化に伴い、ご本人の希望に叶えて挙げられる様に既存のサービスにとらわれず柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族からの要望に応え、快適な生活を送れる様に地域住民との交流に心がけたり、消防訓練等には町内の方も見学や参加して頂いている。地域の理容美容も利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の受診は、各個人のかかりつけ医を継続し、新規受診の必要時には、ご家族と相談し確認と了解を得て、医療連携の病院なり、各必要時の病院を受診している。	利用者の受診は、従来からのかかりつけ医へ通院していますが、協力医療機関への定期受診者には病院の送迎車両を利用し、他の受診には主として職員が対応しています。また、毎週協力医療機関の看護師が来訪して、利用者の健康保持に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護師はおりません。医療連携、各個人の掛かりつけ病院の看護師と連携をとり、変化時には相談しアドバイスを頂いたり、必要時には、主治医と連携をとって頂き対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、各個人の病歴、病状等の情報提供をし、経過を追って、主治医や医療機関関係者、ご家族等と相談連携をとって早期回復、早期退院に向け努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	各人の状態に合わせてご本人、ご家族、主治医、施設側との話し合いを持ち、施設側で対応できる事、出来ない事を説明、方針を決めて職員へと伝え支援体制を整えています。	入居時に看取り支援について具体的指針内容を説明しています。利用者の状態変化に応じて家族や主治医と相談し、ターミナルケアの同意書を頂いています。職員も管理者のアドバイスを勉強会を通してターミナルケアを理解し、ホーム方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、各個人の病歴や連絡先等を個人ファイルに添付新対応出来るようにしている。救急救命の講習会等に参加し、学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、昼、夜と別々に想定し行なっている。職員は消火器、火災報知機等の場所の把握、避難場所等の確認を行なっている。	夜間想定を含めて年2回の定期避難訓練を実施し、住民も参加協力しています。ホームは、職員の救命救急訓練受講、利用者個別対応の避難訓練、災害時の各種マニュアル整備、緊急通報装置へ町内会役員参加、備蓄品整備など災害対策充実に努めています。	ホームは、災害対策に十分配慮していますが、建物内の細部についての点検表を所有しながらも、近年この表を利用していませんので今後の効果的活用を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっておりプライバシーは保たれている。職員は書く個人の人格を尊重し尊厳を持って対応している。	利用者の人格尊重とプライバシー確保について職員もその必要性を認識し、排泄関係や入浴のケアサービス時の言葉かけに十分配慮しており、管理者もアドバイスをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションをとるように働きかけ、言葉では表せない事やは日頃からの言動から察し、湖ぼうや表現を導き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事の時間等は体調に合わせて、時間をずらして、食べて頂いたりレクリエーションや軽作業等は無理強いないようにその人のペースや希望に沿って行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪は訪問理美容師に来院して頂いている。その方に合った髪型をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、もやし、目とり、野菜の皮むき等皆さんでお話しながら行なっている。各誕生日には、希望のメニューをおだしている。	食事献立は利用者の体調等も配慮しながら季節に応じた食材を活用し、彩りや盛りつけも美味しく工に工夫しています。さらに、季節行事に合わせた献立や誕生日には希望の献立を用意し、玄関先でおやつを頂くなど食の楽しさを提供するようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の水分、食事量、持病(糖尿病)等に配慮し、量の増減等の調整しておだしている。又、1日の摂取量を記録し体調管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各個人に合った口腔ケアを職員が付き添い、出来ない所を介助しながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の言動や体動等から排泄パターンを把握し夜間オムツを使用している方も日中はトイレでの排泄を心がけている。誘導はプライバシーに配慮し声掛けに工夫しながら、行なっている。	利用者一人ひとりの排泄パターン把握と表情や様子からさりげない声かけ誘導でトイレでの排泄を支援しています。下着類も利用者の状態に合わせて随時、取り替えるよう心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を記録し、各個人の状況を知り便秘の原因等を探り軽い体操し実施したり、食物繊維の多い食品を心がけていたりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴実施しています。体調に合わせて、変更する場合もあり随時対応しています。	週2回入浴日を設定して居ますが、利用者の体調によっては日時の変更、シャワー浴や足浴、清拭などで身体の清潔を維持するようにしています。1階ユニットの浴室には椅子に座った状態で行う全身シャワー設備も設置されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の希望の寝具をしようし、冬季間は希望があれば、湯たんぽ等をしようされる方もいます。個人の生活習慣を尊重し日中は過ごしていただいています。安眠に繋がるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の病気、服薬内容を職員は把握しております。個人のケース記録に薬の明細を添付しています。服薬時まで、複数の職員が確認して、服薬介助しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の趣味や興味を把握し得意な事は、お願いしたり、皆さんでゲームや歌を唄ったりして楽しみ、天気の良い日は散歩等をして、気分転換を図っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各個人の希望に沿って冬季間以外日光浴や散歩等を楽しんでいる。ご家族の協力の下外出、外泊等も希望に沿って行なわれている。	車椅子や重度の要介護利用者も多いので、ホーム近くの散歩に止まっていますが、家族の協力で自宅や墓参りに行く利用者もいます。車両を利用して花見や紅葉見学、玄関先での外気浴を楽しむなど利用者の状態や希望に合わせて外に出る機会を持つよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る肩には、ご家族との話し合いにより、イベントや受診時に希望の品を買うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご家族や親戚等への電話しようの希望画あれば、仲介をし、電話を取り次ぎ話しやすいように、自室で子機にて話して頂く様に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者様の製作物を展示したり、季節の花を飾ったりして、落ち着いた空間造りに努力している。	開設後12年を経過しましたがホーム内は清掃と維持管理を徹底してきたため共有スペースの臭気も無く、適性温度と清潔感を維持しています。居間兼食堂には季節の飾りや利用者の作品が適度に飾られて、家庭的雰囲気があり、利用者は日中をこの共有スペースで居心地良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいては、ソファや食席の配置は穏やかに安全に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族、ご本人と相談して馴染みのある物や使い慣れたものを配置し、安心して過ごせるように工夫している。	居室のドア前にはのれんがかけられて親しみを感じます。室内には大容量のクローゼットがありますが、使い慣れた家具などの持ち込みも自由です。利用者は家族の写真や各種の飾り、馴染みの調度品などに囲まれながらのんびりと暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室にて生活されており、個人個人の出来る事、出来なき事を把握し、少しでも自立に繋がりがつ、安全に過ごせるように支援している。		